

記憶障害を持って人と共に生きること

青木美和子 北海道大学大学院教育学研究科
Miwako Aoki Graduate School of Education, Hokkaido University

要約

本研究は、記憶に障害を持つ高次脳機能障害者が生活の場において現在（いま）をどのように生きているのかをフィールドワークによって明らかにしようと試みたものである。ある作業所に通う、記憶に障害を持つ高次脳機能障害者3人の行為から記憶のありようを見ていくことにより、生活の場において記憶障害がどのように現れるのかを分析した。これを通して、高次脳機能障害者が自分の記憶障害をどのように経験しているのか、そして周りの人々と共にどのような生活世界を作り上げ生きているのかの検討を行なった。メンバーの記憶障害の特徴は、過去のある時間の記憶がなくなること、記憶を想起できてもその一部が欠落してしまうこと、行為に必要な記憶をタイミングよくまとまりのあるものとして想起できないこと、記憶を想起できるまでに時間がかかることなどである。しかし、これはいつもではなく、「時折」であった。また、作業所では、メンバーとスタッフが作り出した「システム」によって記憶障害が見えにくくされていた。高次脳機能障害は、外見から障害がわかりにくいという意味で「見えない障害」と言われてきたが、当事者とそれを援助する人との関係によっても「見えない障害」になることが考察された。

キーワード

高次脳機能障害、記憶障害、行為、ベルクソン

Title

How Do People with Memory Disorders Manage to Get along with Other Persons?

Abstract

The purpose of this study was to examine how people with memory disorders get by in everyday life. The researcher collected data through fieldwork. The informants were three men who had sustained higher brain dysfunction and memory disorders for extended periods. The characteristics of their memory defects can be divided into four categories; 1) They have the past that they can never recall. 2) They suffer from partial memory loss. 3) They cannot place a given memory within the proper time frame of occurrence. 4) It takes a long time for them to recall a given memory. However, these individuals do not suffer from such memory defects all the time. Under the system which the staffs and members of community disability services have created it could be easy to overlook such memory defects at times.

Key words

higher brain dysfunction, memory disorder, action, Bergson